

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200555		
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園		
事業所名	グループホームやすらぎの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町城北町533番地3		
自己評価作成日	令和2年12月6日	評価結果市町村受理日	令和3年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湊本町43番地		
訪問調査日	令和2年12月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の個性を大切にしている。そして個々の健康面や精神状態に応じて職員間で話し合い、必要時には医療職等専門職からの意見を取り入れ対応を行っている。地元で採れた野菜やお米など四季折々の食材が提供できている事。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの役割を理解し、利用者の心情に思いを寄せ、言葉や行動を否定せず、一人ひとりの思いや希望を尊重した生活の支援をしている。現在、コロナ禍でいろいろなことを制限せざるを得ないが、楽しんで生活して貰えるように納涼祭や敬老会などできることを行い、ガラス越しの面会や手紙の送付、電話でゆっくり話ができるようにするなど、家族との関係を大事にして支援している。家族の希望を尊重し医師や訪問看護師の協力を得て看取りの支援に取り組んだが、自分たちで何ができるのか職員間で何度も話し合いを重ね、チームで取り組むことができた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を管理者・職員が理解し実践に繋がられるよう掲示されている。人事考課の中で確認し共有している。	事業所内に掲示し、職員は出勤時に確認し業務に就いている。法令遵守と理念を絡ませて研修を行い共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や第三者委員会で繋がりはあるが日常的に交流は出来ていない。地域の一員としては年1度の清掃活動のみ。挨拶は欠かす事なくしている。ボランティアは今では受け入れ出来ない	自治会に加入している。これまで民謡や生け花のボランティア、保育園児などと交流していたが、現在はコロナ禍にあり中止している。回覧版などで地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれた事業所でありたいと考えているが、地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は文書での開催。利用者状況や事故ヒヤリの報告、活動内容等を報告し家族等からの意見を真摯に受け止め活かしている。	利用者の状況や活動、事故・ヒヤリハット、身体拘束、防災などについて報告し意見交換を行っている。今年度は文書で報告、意見照会を行い開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂いたり、地区連絡会へ参加する事で情報交換し地域での介護状況等を業務検討会で周知している。	運営推進会議や広報紙で状況を伝えたり、行政主催の地域連絡会で他の事業所や関係者と情報交換を行い協力してサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で指針に基づき研修会を行っている。3か月に1回事例を挙げ職員間で検討会を開催している。	毎月、身体拘束のチェック項目の確認を行い、検討会で事例を挙げて話し合っている。利用者の心情を推察し、否定せず受け止めて対応することに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や日々の業務の中で見逃さない様にしている。又気づいた事が気軽に言える環境作りも大切と考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を設けている。現在制度を利用されている利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。運営推進会議や担当者会議、面会時に意見を聞かせて頂く機会を設けている。	運営推進会議や面会時などに意見を聞き運営やケアに反映させている。利用者は全員運営推進会議に参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回業務検討会を開き話し合いの場を設けている。意見や提案を反映出来るよう努めてはいるが全職員を納得出来るレベルには課題が多すぎると考えている。	話しやすい環境づくりを行い、業務検討会で意見を聞いたり日常的に相談を受けるなどしている。休憩室を作ったり消耗品の交換を行うなど、みんなで話し合いながら環境整備を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により把握している。職場環境については月1回衛生委員会を開催し検討しており業務検討会で報告し周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年に1回人事考課を行い職員の評価を把握している。資格取得やスキルアップの働き掛けは管理者から行っている。研修会の内容について実践に即した内容を検討したいと考える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は現在ないが、地区の連絡会や法人内の調整会へ参加し情報交換は行えている。知り得た情報は業務検討会で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者家族へ施設見学を勧めて不安を軽減してもらっている。利用者の思いを傾聴し発した言葉や表情から気持ちを汲み取るように対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事不安に思っている事は丁寧に聴き取り対応します。日頃の生活状況をお知らせしたり、回数を重ねて関係性を築いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の意向と、実際に必要と思われる支援の相違がある場合は、サービス導入後の見立てを説明し理解して頂く。望む生活の実現の為に他のサービス利用も提案する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活してきた力が低下しない様一人の生活者として捉え、一人一人の能力を引き出し発揮できるよう支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長年利用者を支えて来られた家族は大切な存在と考えている。何時でも気軽に相談出来る関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設へ入所した事で今迄地域で暮らしてきた関係性が途切れる事が無いよう面会や電話等活用している。	家族との一緒の時間を大切にし訪問時は居室で利用者と食事ができるように支援している。コロナ禍ではガラス越しの面会の実施や、定期的に写真を送ったりゆっくり電話できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や関係性を配慮し孤立しないように利用者同士が関わり合い出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も関わった家族や関係者との関係性は大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や何気ない会話、入浴時ゆっくり対応出来る時等に把握している。知り得た気づきは業務検討会時に検討している。	入浴時にゆっくり話を聞いたり、日頃のちょっとした言葉を受け止め思いの把握に努めている。情報は職員同士で共有し業務検討会で話し合いケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や関係事業所より情報収集を行い職員間で共有している。日々の関係を構築する中で更に把握出来るように情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録へ心身状態や変化や気づきを記載し職員間で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で家族や専門職から、業務検討会で日々のケアの気づきを吸い上げ介護計画・モニタリングへ反映し作成している。	利用者、家族の意向や、医師や看護師などからも意見を聞き介護計画を作成している。状況に即した介護計画を作成して支援し、利用者の体調や表情が良くなるなど、状況が改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へ日々の変化や気づき等を記載し全職員が共有出来るようにしており介護計画の見直しに活かされている。記録の方法として効率や落としが無いよう課題はあると考える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応したいと考えその都度職員間で話し合いを行っている。コト禍対応が難しい事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	直接利用者が交流する場面はないが、仕入先から育てた花が届き、その花を見て豊かな気持ちで過ごされる姿を見ると生きる力になっていると感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期往診の他に急変時にはいつでも相談出来る体制が出来ている。	かかりつけ医による定期的な往診や職員が受診支援をしている人もいる。体調変化時には医師に報告し指示を受けて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の訪問により体調管理を行っている。変化や気づき等を情報提供し相談できている。必要時には早期の受診へ結び付け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側との関係づくりは行っている。入退院時には普段の生活情報を提供し退院する際には安心して施設での生活が送れるようにカンファレンスを開催して頂く事で情報の共有が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の判断は医療側の見解と家の受け止め方も様々で早期に話し合う事が難しい。家族の気持ちの揺れ動きに寄り添い、医療側の専門的な意見をもらい事業所としてどこまでできるのか職員間と話し合いチームとして取り組む事が出来た。	利用者、家族の意向をくみ取り、かかりつけ医や訪問看護師の協力を得て支援に取り組んだ。職員は病状の変化や対応など不安なこともあったが、自分たちに何がどこまでできるのだろうかと何度も話し合いチームで支援することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の機会を設けている。緊急連絡網やマニュアルに基づき対応しているが実際の場面に遭遇すると慌てる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議上、災害時の避難訓練を地域との協力体制の元計画したがコロナの影響で実行出来なかった。避難訓練を繰り返す事で見についている。	年2回、火災訓練を行い、職員の役割も決めている。8月の豪雨時には川の水位が上がり実際に法人施設に避難した。その後、備蓄品の見直しを行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応できている。利用者のその時の気持ちを理解し言葉より見守りで対応する事もある。	利用者と視線を同じにして話し、傾聴し、共感することに努めている。排泄介助時などプライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表出出来る方難しい方それぞれの対応について職員間で差が見られる。利用者の表情や言葉の内面に隠された思い等を察し、引き出す力が充分でないと考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調を見ながら1日の流れに沿い過ごされている。レクリエーションの内容は個別で良いと考える。利用者の意向を確認し参加する事も大切だが笑い楽しい時間があればよいと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪屋に来てもらい対応している。可能な時は行き付けの美容院へ家族共に出掛けて気分転換に繋がっている。衣服も自分で選べるよう対応の工夫が必要と考える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる楽しみが失われないよう地元で採れた食材や昔ながらの地元特有の食べ方で提供する事もある。一人一人の出来る範囲で盆拭き下膳、食材の皮剥きはされるが、準備については声掛けしても参加されない。	地元の旬の食材を使用している。利用者は盆拭きなどできることを行い、行事食と一緒に汁物などを作ることもある。以前は調理担当の職員が決まっていたが、現在はどの職員も食事作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体力、既往歴等を考慮しバランスや特に水分量が不足しないよう気をつけている。治療の為、医師の指示への対応もできる範囲で相談し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け促している。一人で難しい方はサポートに入り確認している。残差、磨き残し舌の状態迄確認が必要だが職員統一して行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最期までトイレで排泄したい気持ちを大事にしたい。一人一人の行動を細かく観察する事で声掛けのタイミング等を見逃さない。知り得た情報は職員で共有し自立に向けている。清潔保持する事で肌トラブルを回避している。	利用者の思いを大事にして支援し、適切な声かけができるようにしぐさや行動を見逃さないようにしている。布パンツになり肌トラブルが減少した人もいる。利用者は慣れた居室のトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人差があり難しい事案で研修も参加し復命している。食事を工夫したり水分量・排便記録を元に看護師医師へ適宜相談し指示を受けている。受けた指示は職員へ周知している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴され午後はゆっくり過ごされる。体調に合わせて時間を調整したりベッドバスで対応している。入浴時にはゆっくり話を聴くように対応している。	湯の温度やシャンプー、化粧水、それぞれの習慣に合わせて対応し、ゆっくり話を聴くようにしている。体調に合わせて時間を変えたりベッドバスをするなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室があり夜間寝るだけでなく、本を読む音楽を聴くTVを観る等、いつでもくつろげる空間として自由な過ごし方をされている。コロナの前は家族と一緒に食事もされていた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に確実に服薬出来る状態に対応している。用法や副作用等はファイリングしてありいつでも職員が見れるようにしている。状態変化時は医師看護師へ情報提供対応し結果が周知出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一律に洗濯物たたみ等され気分転換にはなっていると思われる。一人一人の生活者としての役割や達成感等を充分に感じられる支援が必要と考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外泊も今は控えている。行事で出かけるドライブ、施設周辺の散歩程度になっている。受診時の帰りに自宅近くまで遠回りし足を延ばしている。希望として盆正月は帰省したい声が多く期待に沿えない事が残念。	現在はコロナ禍で出かける機会は減っているが、施設周辺を歩いたり受診時に出かけるなどしている。これまでは里帰りドライブや花見、買い物、外食、外泊など家族の協力も得て行っていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し施設側がお金を預かり管理している。どうしても手元に置く事で安心される方は相談し相当額を所持されている。コロナの影響で買い物へ行く機会は避けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に対応している。コロナの影響で直接面会が出来ない事もあり家族や友人の方へは出来る限る連絡をと事業所からも声掛けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年中快適に過ごせるように室温が調整されている。庭で咲いた花等室内へ飾り季節感を感じて頂いている。庭へのアプローチはデッキが老朽化し危険を伴う為出来なくなっている。	写真や花、園児の作品や絵を飾りゆったりとした環境づくりをしている。外の景色が楽しめるようにソファを設置し、自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームの一番眺めが良い場所へソファが置かれ自然と集まる憩いの場所となっている。お茶おしゃべりされ、自由にゲームやかるた等出来るよう置いてある。広い建物内を運動で歩かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活していた環境を情報収集し身体機能や排泄面等を考慮し家具等配置している。馴染みの物等は持ち込み自宅に居る様に落ち着いて過ごせるよう工夫している。	仏壇や椅子、カセットなど馴染みの物を持参してもらい、本を読んだり音楽を聴いたり居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内(トイレ洗面台)廊下、浴室内へ手摺りが設置されている。身体機能に応じ声掛け指示を適切に行い転倒防止出来、安全な生活が送れている。		